

みなさん、あけましておめでとうございます。2022年を迎え、いよいよ今日から3学期が始まります。

2学期の終業式では、みなさんに「答えだけを求める勉強をしてほしくない」というお話をし、1月1日に Google Classroom の校長クラスで課題を配信することをお伝えしました。お題は「あなたは何のために勉強するのですか?」でした。課題提出は昨日の6日が締め切りでしたが、156名の登録者の内、37名の方から回答をいただきました。

回答で一番多かったのは「理想の自分」をつくりたいという思いに関わるものでした。「立派な大人になりたい」「自分の可能性を広げる」「なりたい自分になる」などです。中には「考える力を養う」「後悔することが増えないようにする」「やりたくないことに向かって努力する力をつける」など、もう少し具体的に理想の姿を記載してくれた人もいました。

また、同じくらい多かったのが「夢・目標」に関わるものでした。「自分の目標を達成させる」「夢を叶える」などです。「自分の好きなことをするため」といった漠然とした夢から「行きたい学校に行く」「いい大学に入る」「よい仕事についてお金を稼ぐ」といった少し明瞭な目標を書いてくれた人もいます。

反対に少数派の回答としては「自分が学びたい分野を学ぶため」、「勉強するため」というものや「そこに山があるから」という、一見意味不明な回答をくれた人もいます。この「そこに山があるから」という言葉は1923年3月付けのニューヨーク・タイムズ紙の記事に「なぜあなたはエベレストに登りたかったのですか (Why did you want to climb Mount Everest?)」と尋ねられたイギリスの登山家ジョージ・マロリーが、とっさに「Because it's there」と答えたと報道されており、その日本語訳として広まった言葉のようです。ですから「そこにエベレストがあるから」という訳が正しい気がしますが、解釈には諸説あるようです。また、「今を楽しむため」という回答を返してくれた人もいました。

ここで、私は自分の質問の仕方が少し悪かったことを反省しました。おそらく、「何のために勉強するのか?」と問われれば、勉強する理由を「何かのために」と答えなくてはならない。この時点で、勉強を「何かのため」の「手段」として定義してしまうことになります。でも、少数の方が答えているように「学びたい分野を学ぶため」、すなわち「学ぶこと自体が面白いから」という理由や「そこに山がある、言い換えれば、そこに学びの面白さがあるから」という理由も勉強に向かう原動力になることにまちがいありません。「今を楽しむ」ということも、

「今の勉強が今の楽しい毎日につながるから」ということでしょう。

古代ギリシアでは役に立つか、立たないかで学問を考えるのではなく、物事があるがままの姿で眺め、それがどうして美しいのか、どうして正しいのかを考えることが大切であるとされていました。このような学問の在り方や態度を「観想（テオーリア）」とよび、これが西洋哲学の基礎となっていきます。ちなみに英語の「theory(セオリー)」という言葉の語源はこのテオーリアと言われています。古代ギリシア人は学問という世界が存在すること自体に価値があることであり、人間がこれに挑戦すること自体が素晴らしいことであると考えました。

勉強することは本来面白いことであり、楽しいものであったのです。少数派でない回答を返してくれたみなさんの中にも、勉強の面白さや楽しさをどこかで感じた経験がきっとあるはずです。勉強の意味を何かを達成するための「手段」として考えるだけでなく、本来の面白さ、楽しさを見つけること、あるいは難しいことに挑戦する喜びを感じることを忘れないでいてほしいと思います。答えだけを知る勉強を続けていては、その実現はできません。

3学期はあっという間に終わる短い期間であることを、みなさんはこれまでの学校生活で経験し、よく知っています。3年生は次の世界に踏み出す本当の勉強を、1・2年生は学びの喜びを見つける本物の勉強を、それぞれの立場で、短い時間の中にあっても追求し、令和3年度を悔いなく締めくくってほしいと思います。

以上で私の講話を終わります。